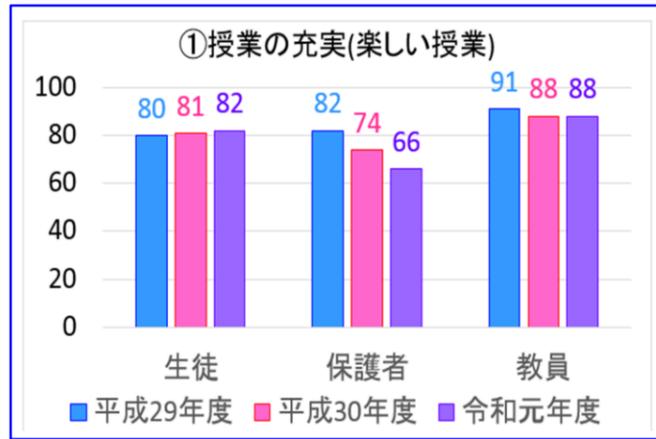
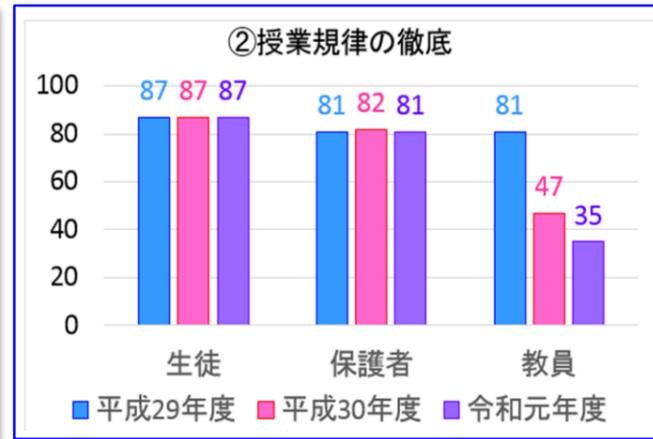


令和元年度 第1回 学校関係者アンケートの結果について(表面)

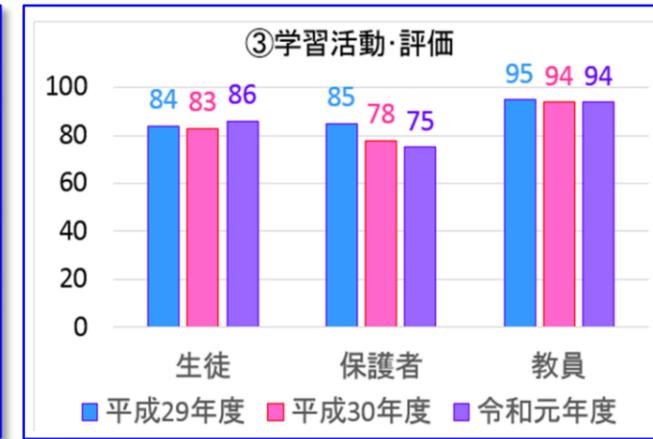
令和元年10月15日
東大和市立第五中学校



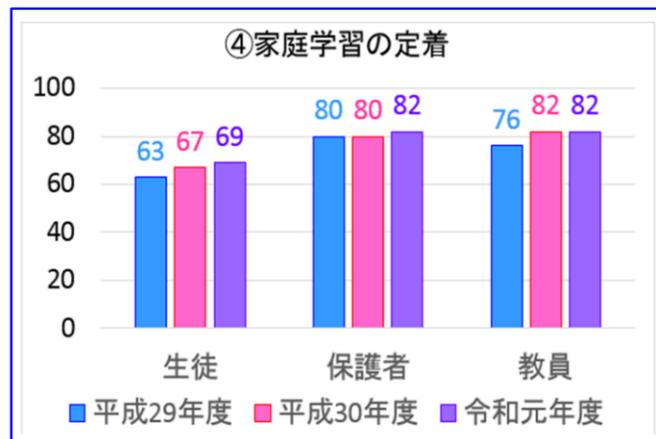
【分析】
生徒の満足度は80%台で安定しているが、保護者の肯定的な見立てが減少している。



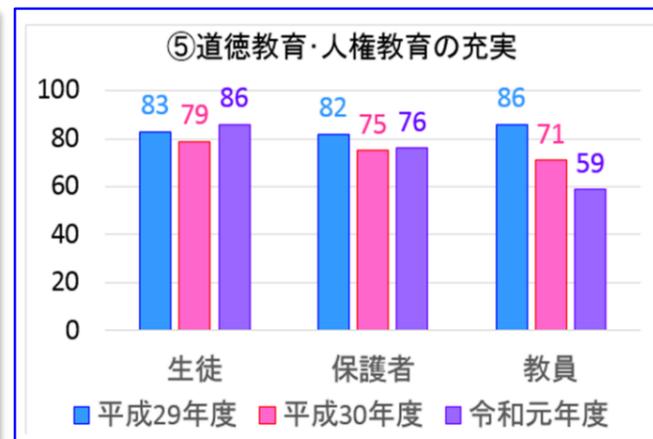
【分析】
生徒と保護者ともに授業規律は保たれているととらえているが、教員の危機感が高まっている。保護者と教員の意識の乖離が考えられ、保護者との連携を深める必要がある。



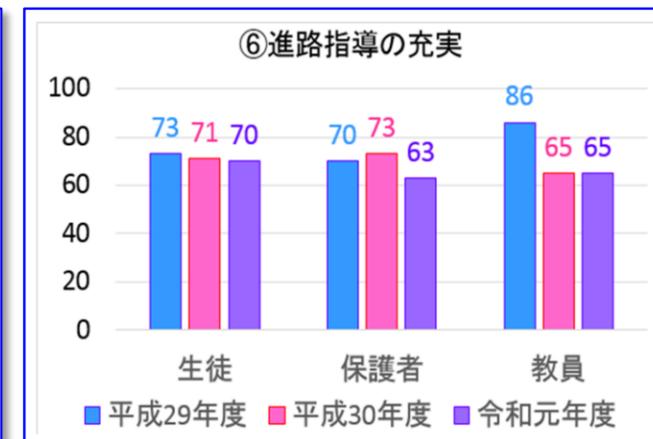
【分析】
教員の学習活動と評価について保護者の理解が減少している。改訂された学習指導要領の令和3年度からの全面実施を前に、丁寧な説明を継続する必要がある。



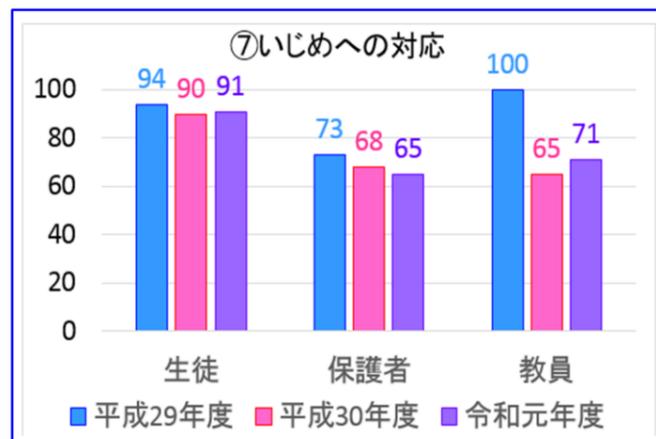
【分析】
家庭学習記録シートが年々定着する中、今年度からは単元テストが始まり、家庭学習が一層深まっていると考えられる。



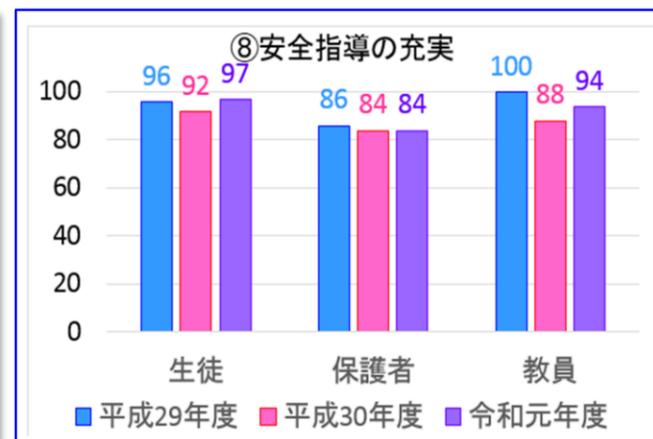
【分析】
教員は公共心や思いやりなどの道徳的価値について、学校教育全体の中で日々指導しているが、生徒に浸透しない危機感を有している。



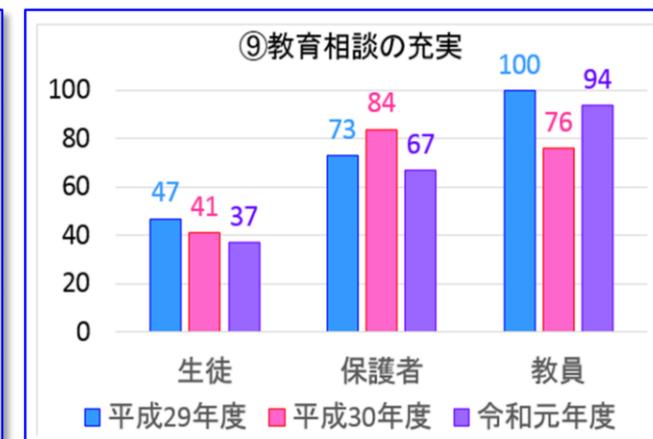
【分析】
上級学校訪問や職場体験がキャリア教育の一環として重要な位置付けであることを生徒に理解させ、進路選択に生かされることを啓発する。



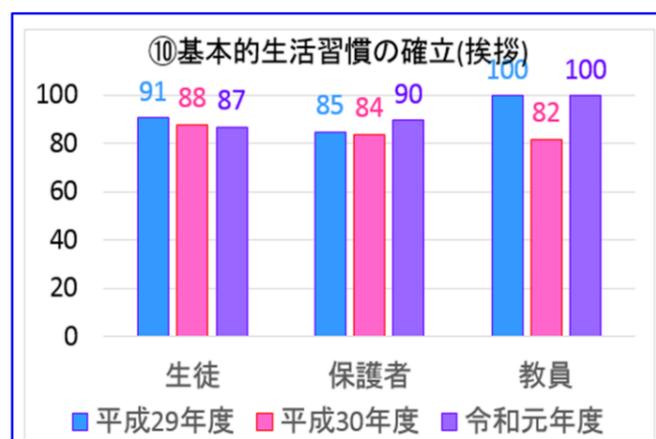
【分析】
教員は学校生活での生徒の言語活動や友人との関りについては丁寧に指導できるが、SNS内でのトラブルについては対応が困難であると認識している。



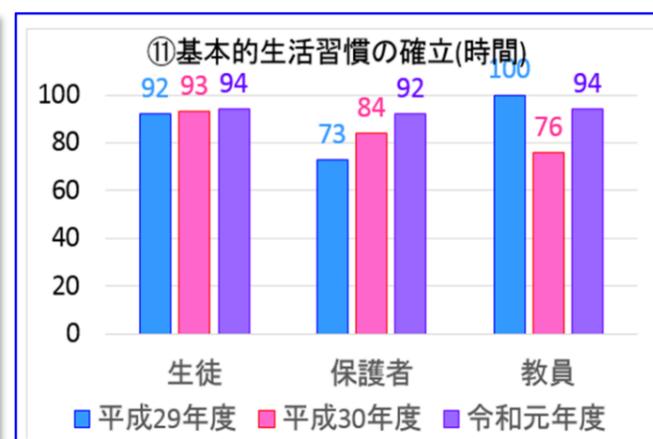
【分析】
定期的な火災や自然災害への備えに対する指導の他、近年の社会的な自動車による事故の多発から、交通事故への意識が高まっていると考えられる。



【分析】
安心してスクール・カウンセラーや教員へ相談できることを生徒に呼びかけているが、生徒の満足度が減少している。早急に調査・研究する必要がある。

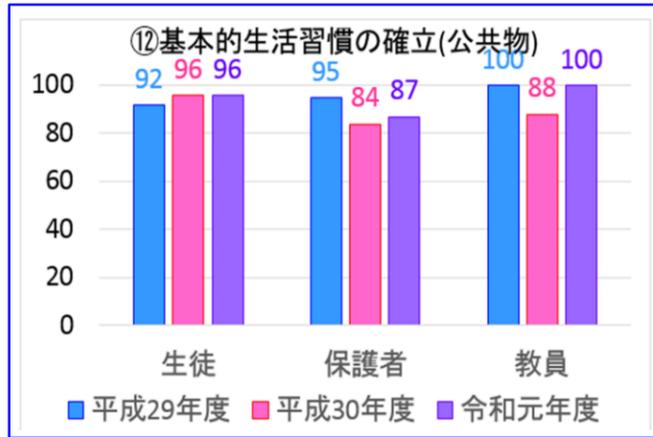


【分析】
挨拶の奨励の取り組みは、教員と家庭で共有できている。

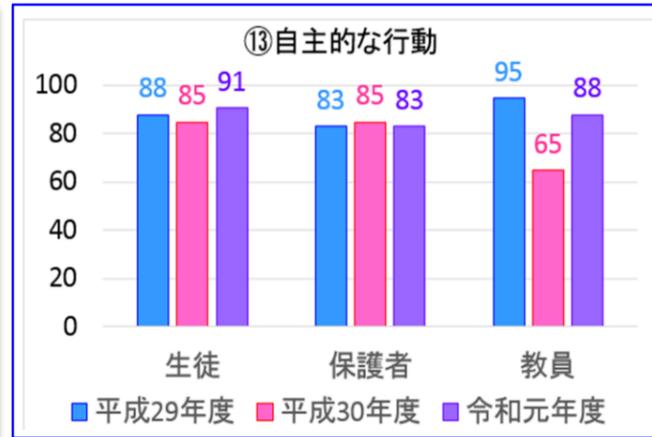


【分析】
授業が始まる3分前の教員の移動や提出物の期限厳守等が徹底していると考えられる。

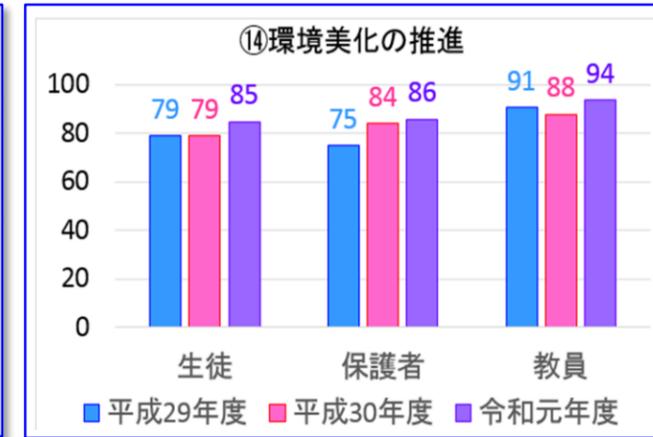
【グラフの見方】
●単位 百分率(%)
●グラフ上部の数値ラベル 肯定的な回答(A層とB層)の合計値
A層:「とてもそう思う」
B層:「どちらかといえばそう思う」
C層:「どちらかといえばそう思わない」
D層:「そう思わない」



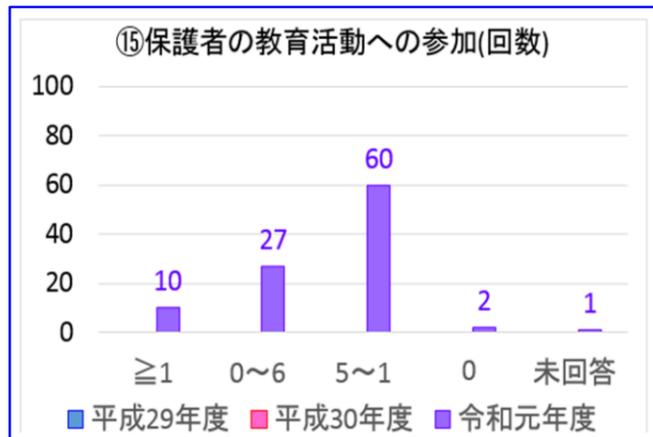
【分析】
掲示物へのいたずらや器物破損については厳しく指導していることから、公共物に対する生徒の理解は深まっていると考えられる。



【分析】
中学生としてのあるべき姿や行動指針が在校生に身に付いていると考えられる。



【分析】
日々の清掃活動が徹底され、校内が清潔に保たれている。



【分析】
今年度からコミュニティ・スクールを導入したことを踏まえ、保護者の学校教育への参画意識を計ることとした。